

共に学び共に育つ

～チームで関わる～

■はじめに

多くの先生方に支えていただきながら、日々、反省と学びの毎日です。特別なことはできていませんが、私がいつも助けられている取組を紹介します。

■校内のチームワークを土台に

担当の子どもたちを「何とかしなければ」と1人で抱え込みがちになったこともあります。 「みんなで見よう!」という言葉に助けられました。子どもたちの情報を積極的に共有し、困っていることや指導したいことをオープンに話し合うことで、様々な場面で一貫した声掛けや指導をすることができました。複数の教員が指導目的を共有しながらそれぞれの強みを生かした方法で指導ができることは、大いに子どもたちの成長につながるのだと思います。

■小中連携が心のつながりに

今年度は小学校の先生と密に連絡を取り合い、交流を深めました。中学校に進学するに当たって、小学校の先生方が子どもや保護者の不安を聞き取り、中学校につないでくださいます。中学校見学をしたり、小学校へ説明に伺ったりすることで、進学に関わる

不安の解消につながりました。

中学校としても、引き継ぎ前にどのような子どもが入学してくるかを把握しておくことで、適切な準備をすることができます。まだシステムとして整っておらず道半ばですが、今後も積極的に情報交換をして、より

よい連携の方法を探っていきたいと思います。

■パートナーティーチャー制度も頼りに

校内だけでは、時として行き詰まってしまうことや視野が狭くなってしまうこともあります。その際に、多くの事例を知っているパートナーティーチャーの専門的なアドバイスは視野を広げるチャンスとなります。いつも私たちの困り感に寄り添ったアドバイスを頂けることに感謝しています。



池田町立
池田中学校

教諭
政所 知恵



■おわりに

「その子はいずれ18歳になる」

「その子が我が子だったら」

この2つの言葉は、私が最初に特別支援学級を担当することになったときに、特別支援教育は教育の原点として教わり、実感した言葉です。この言葉を忘れず、そしてチームで関わることを大切にして、これからも子どもたちに関わっていきたいと思います。